

# 令和7年度 第1回高齢者支援部会 議事録

日 時: 令和7年 10月 22日(水)

19時 35分～20時 25分

場 所: 帯広市役所 10階 第3会議室

## (会議次第)

### 1 開 会

### 2 議 題

(1) 令和6年度決算報告

(2) 第九期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の実施状況

(3) 第十期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けたアンケート調査について

(4) その他

### 3 閉 会

## (委員・専門委員)

### ● 出席(8名)

山並委員、山本委員、下坪委員

畠山専門委員、東専門委員、川向専門委員、野尻専門委員、鈴木専門委員

### ● 欠席(1名)

末永委員

## (事務局)

### ● 介護高齢福祉課(5名)

阿部課長、野原主幹、尾坂係長、渡辺係長、銭谷主任補

### ● 地域福祉課(1名)

藤本課長補佐

## (議事録)

### ● 事務局

ただいまから、帯広市健康生活支援審議会 第1回高齢者支援部会を開会いたします。

### ● 事務局

本日は、委員及び専門委員9名中8名のご出席により、過半数のご出席をいただいておりますので、本部会は、帯広市健康生活支援審議会条例施行規則第4条第1項の規定により、成立しておりますこ

とをご報告いたします。

議事に入る前に、本日の資料を確認させていただきます。

事前に皆様に送付しております、

- ・会議次第
- ・資料1-1から1-2 一般会計決算
- ・資料2-1から2-3 介護保険会計決算
- ・資料3 介護保険事業の概要
- ・資料4 第九期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画実施状況
- ・資料5 令和7年度保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金について

また、机上に配付しております

- ・第十期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けたアンケート調査資料
- ・座席表
- ・資料4の差し替え分

以上の資料につきまして、不足等ございましたら、ここでお申しつけください。

よろしいでしょうか。

(各委員及び専門委員 不足等なし)

## ● 事務局

それでは、今年度第1回目の部会開催になりますので、事務局より委員、専門委員の皆様を紹介いたします。

まず、委員の方からご紹介させていただきます。

山並 秀章 様です。

山本 容子 様です。

末永 敢行 様は本日ご欠席の連絡をいただいております。

下坪 文香 様です。

続きまして、専門委員の方をご紹介させていただきます。

畠山 晴美 様です。

東 哲慎 様です。

川向 優子 様です。

野尻 勢津子 様です。

鈴木 恵 様です。

続きまして、本部会の事務局を担当する職員を紹介いたします。

介護高齢福祉課の 課長 阿部 恭子と申します。

同じく介護高齢福祉課

主 幹 野原 直美です。

総務・保険料係長 尾坂 健です。

主 任 補 銭谷 亮太です。

高齢者福祉係長 渡辺 直美です。

地域福祉課

課長補佐 藤本 百代です。

以上、よろしくお願いいたします。

● 事務局

次に、部会長選出及び副部会長指名でございますが、本日がはじめての部会となりますので、部会長選出まで、事務局で進行いたします。

● 事務局

部会長の選出は、帯広市健康生活支援審議会条例施行規則第3条第4項の規定により、委員の中から皆様の選挙により定めるものとされているところです。

早速ではございますが、部会長の選出について、どのような方法にいたしましょうか、お諮りいたします。

○ 委員

指名推薦を提案いたします。

● 事務局

ありがとうございます。ただいま、指名推薦のご提案がございました。部会長の選出は、指名推薦によるものとしてよろしいでしょうか。

(各委員及び専門委員異議なし)

● 事務局

それでは、どなたか指名推薦をお願いいたします。

○ 委員

部会長に、山並委員を推薦いたします。

● 事務局

ありがとうございます。ただいま、部会長に山並委員の推薦がございました。ほかに推薦はございませんか。

(各委員及び専門委員ほかの推薦なし)

● 事務局

山本委員から部会長推薦がありましたので山並委員を部会長とすることに異議ありませんか。

(各委員及び専門委員異議なし)

● 事務局

ありがとうございます。それでは、部会長は山並委員に決定いたしました。部会長には、ひと言ご挨拶いただいたあと、今後の議事進行をお願いいたします。

(山並部会長ご挨拶)

○ 部会長

次に副部会長の指名です。副部会長は、審議会条例施行規則第3条第6項の規定により、部会長が指名となっておりますので、私から指名いたします。

副部会長は、山本委員にお願いしたいと思いますが、山本委員よろしいでしょうか。

(山本委員指名承諾)

○ 部会長

ひと言ご挨拶お願いいたします。

(山本副部会長ご挨拶)

○ 部会長

それでは、会議次第の「2 会議」に入らせていただきます。

はじめに、(1)「令和6年度決算報告」について、事務局よりご説明をお願いいたします。

● 事務局

それでは、資料1について説明させていただきます。資料1-1 令和6年度一般会計決算(概要)をご覧ください。

一般会計の総事業費は、7億1,628万1,004円で、そのうち、老人福祉費が7億699万8,234円でございます。

総事業費の前年決算対比では、500万909円の減となっております。

前年決算対比における主な増減の要因についてご説明申し上げます。

上から4番目、「高齢者在宅生活支援費(扶助費)」は、在宅サービス提供事業及び家族介護用品支給事業の対象者の増加に伴い、前年度より決算額が増加しているものです。

次に上から5番目、「ひとり暮らし高齢者緊急通報システム事業費」は、緊急通報システム利用者の減少に伴いまして、前年度より決算額が減少しております。

令和3年度以降の事業別の予算額及び決算額の推移につきましては、資料1-2のとおりとなっております。

資料1につきまして、説明は以上でございます。

## ● 事務局

続きまして、資料2・3についてご説明させていただきます。資料2-1 令和6年度介護保険会計決算(概要)をご覧ください。

令和6年度の介護保険会計の総事業費は、167億6,814万7,370円となっております。

前年決算対比では、2億6,825万5,334円の増となっております。

全体的な増加要因としては、高齢者人口の増加とともに給付費が増加しているということが考えられます。

次に、前年決算対比における主な増減の要因についてご説明申し上げます。

まず、左側の事業費からですが「保険給付費」関係につきましては、後ほど資料3で説明させていただきます。

1番下の囲みの任意事業費のうち、「高齢者在宅生活支援費」について、食の自立支援事業の配食数の減少に伴い、前年度より決算額が減少しています。

また、「介護給付費適等正化事業費」について、適正化主要事業再編に伴う給付費通知の廃止により通信運搬費が減となり、前年度より決算額が減少しています。

「成年後見制度利用支援事業費」について、成年後見制度の利用者数の増加等に伴い、助成金申請件数が増加したことで前年度より決算額が増加しております。

右側の事業費に移りまして、上から4番目の囲みの一般管理費のうち、「一般管理事務費(臨時)」について、令和5年度と比べ大幅に減少しておりますのは、第九期計画策定に係る費用の計上がなかったため、減少となっております。

また、「一般管理事務費(地域福祉)」及び「被保険者資格管理費」について、物価高騰による事務用品や印刷製本費の単価増により、前年度より決算額が増加しております。

次に下から2番目の囲みの「介護保険料徴収費」について、コンビニでの収納手数料単価及び納付件数の増のため、前年度より決算額が増加しています。

令和3年度以降の事業費別の予算額及び決算額の推移につきましては、歳入につきましては資料2-2、歳出につきましては、資料2-3のとおりとなっております。

続きまして、資料3 介護保険事業の概要をご覧ください。

はじめに1ページ目、「被保険者の状況」をご覧ください。

1番目の「第1号被保険者数(65歳以上)」につきまして、上半分の表では、本市における平成24年度以降の人口や、第1号被保険者数の推移を記載しております。

表の右側、令和6年度の総人口は161,051人、第1号被保険者数は49,585人、被保険者比率は30.79%となっております。

下半分のグラフにつきましては、棒グラフが本市の人口、折れ線グラフが第1号被保険者数となっております。

人口は徐々に減少し、逆に、第1号被保険者は徐々に増加していることが分かります。

続きまして2ページ目、「要支援・要介護認定者数」をご覧ください。

表の左端の中段に、「合計④」と書いた行がありまして、こちらが、各年度における要介護認定者数の平均値となっております。令和6年度につきましては、11,138人となっております、平成24年度の約1.45倍に増加しております。

表の一番下の行には軽度認定者の割合を記載しております。軽度者は、要支援1から要介護1までの方が対象となりますが、令和6年度は全体の59.56%が軽度者となっております、軽度者の割合が徐々に増加していることが分かります。

これは、早い段階で介護認定を受け、自立に向けた介護サービスを利用することで、重度化の抑制に繋がっているものと考えております。

続きまして3ページ目、「介護保険給付費の状況」をご確認ください。

令和6年度の給付費の合計としては、計画値で158億1,614万9千円を見込んでおりましたが150億8,308万7千円の実績となっております。一番右側の、計画と実績の対比率につきましては95.4%と、概ね計画どおりに進捗しております。

続きまして4ページ目、「介護サービス別利用量の実績と計画」をご覧ください。

こちらでは、サービスの利用人数や回数における計画と実績につきまして、サービス種類ごとに比較をしております。

左側の表の介護給付のうち、令和6年度の執行率につきまして、計画値と乖離している項目の主だったところについて、ご説明させていただきます。

短期入所系サービスについて、新型コロナウイルスの影響による利用控えが令和6年度も引き続き回

復傾向になく、減少となりました。

また、認知症対応型通所介護について、利用者数の減少に伴い、サービス利用量も減少しました。それ以外は、概ね計画通りの実績となっており、右側の予防給付の表につきましても、概ね介護給付に近い動きとなっております。

続きまして5ページ目、「介護保険料の状況」をご覧ください。

1番目の「段階別保険料」につきましては、計画第七期の令和元年度から令和2年度、第八期の令和3年度から令和5年度、第九期の令和6年度から令和8年度の所得段階別保険料額を記載しております。

2番目の「保険料の収納状況（現年度分）」につきましては、表の右下、令和6年度の収納率は99.60%となっております。

その下の3番目、「令和6年度保険料の収納状況」につきましては、いわゆる年金からの天引きである特別徴収と、納付書等で納めていただく普通徴収、それぞれの収納率を記載しております。

その右の4番目は、市独自の保険料の軽減制度の実績となっております。令和6年度につきましては、240人の方に374万1,270円の保険料の軽減を行っており、軽減率は45.44%となっております。

資料2及び資料3につきまして、説明は以上でございます。

○ 部会長

ただいまの説明について、ご意見やご質問はございますか。

○ 委員

ALSの方に対する支援事業実績が0円となっております。昨年度も0円だったと思います。令和6年度における当事業の対象者はどのくらいいたのでしょうか。

● 事務局

こちらは申請により支給するもので、申請がなかったことから支給もなかったという結果になっています。申請がなかったため、対象者がどのくらいいるかは把握できていません。

○ 委員

事業に関する周知は十分にされているのでしょうか。

● 事務局

同様の支援を提供するサービスが障害福祉課にもありますが、介護高齢福祉課としては第1号被保険者の方に対して、このような支援があることがなかなか浸透していないと感じています。

○ 委員

資料3の総人口に関して、令和7年度から8年度にかけて微増しているのは、その見込みがあるということでしょうか。

● 事務局

仰るとおり、表の数値としては微増していますが、令和7年度までが実績値なのに対し、令和8年度は計画策定時の見込みの人数となっております。来年度の人口については、現在の傾向だと下がっていくものと推測されます。

○ 委員

以前の計画策定時の見込みよりも早い速度で人口が減少しているということでしょうか。

● 事務局

そのとおりです。

○ 部会長

そのほか、ご意見やご質問はございますか。

(各委員及び専門委員 質問・意見なし)

○ 部会長

次に、会議次第の(2)「第九期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の実施状況」について、事務局より説明願います。

● 事務局

資料4「第九期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業実施計画実施状況」につきましては、施策の方向性と主な実施事業の実績を掲載しておりますのでご覧ください。進捗につきましては、指標の評価結果に基づきご説明させていただきます。

10 ページをご覧ください。

帯広市では、第九期計画において、4つの指標を設定しています。各指標は、達成率に応じて、A からD の4段階で評価しており、達成率 80%以上を A、60%以上・80%未満を B、40%以上・60%未満を C、40%未満を D と評価しています。

指標1『要介護度が「要介護度1」までの高齢者の割合』につきましては、実績が 91.2%であり、目標達成に向けて順調に進捗しています。

こちらは帯広市の自立支援に向けた介護サービスの提供や地域包括支援センター・介護事業所によ

る介護予防教室への参加、自主的な軽運動等の実践などが介護度の重度化の抑制につながっているものと考えております。

指標2の『地域の支え合いを推進する協議体の設置数』につきまして、令和6年度の設置数は 12 か所であり、令和5年度の 16 か所から減少しております。

こちらに関しましては、地域のニーズの変化により協議体としての活動が終了したものがあつたため、協議体設置数が目標を下回つたものです。協議体については、地域の課題解決に向けた取り組みに差がある状況となっております。

今後も、多様な形の協議・活動を推進し、地域の支え合いの仕組み作りを進めてまいります。

指標3の『介護サービス事業所における1年間の離職率』は 15.99%であり、目標値を上回つたものの、令和5年度よりも下回つております。こちらは離職率の低下に関する指標であるため、この指標のみ、目標値を下回る必要がございます。

令和7年度においては、介護職員が受講した研修費用の一部を助成する事業を帯広市で開始しました。

また、引き続き、経験が少ない新任職員のスキルアップ研修会や介護現場におけるリーダー職向け、事業所管理者向けの研修会を実施し、介護現場での職員の定着・育成を図ります。

指標4の『チームオレンジ活動者登録数(累計)』につきましては、令和6年度の登録者集は 66 人であり、目標を下回りました。

これは、認知症サポーター養成者数及びステップアップ講座受講者数が減少したことに伴い、チームオレンジ活動者登録数も減少したものです。

今後は、広報やイベント等でチームオレンジの周知を充実させ、認知症の人やその家族を地域で支える環境づくりを進めてまいります。

資料4につきまして、説明は以上でございます。

○ 部会長

ただいまの説明について、ご意見やご質問はございますか。

(各委員及び専門委員 質問・意見なし)

○ 部会長

では、次に進みたいと思います。会議次第の(3)「第十期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けたアンケート調査について」、事務局より説明願います。

## ● 事務局

「第十期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業実施計画の策定に向けたアンケート調査」につきまして、説明させていただきます。

お手元にお配りしている資料の1ページ目をご覧ください。はじめに、本アンケート調査の目的につきましては、令和9年度から令和11年度までを計画期間とする第十期計画策定の基礎資料とするため、高齢者の生活状況や介護労働者の実態を把握するために調査を行うものです。

次に、調査概要でございますが、調査時期については令和8年1月に予定しております。調査方法は、郵送による配布・回収のほか、WEBによる回答も実施する予定です。

次に、調査種別は、一覧表の①～⑥の6種別で行います。

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び②在宅介護実態調査については、国指定項目に市独自項目を合わせた調査となっています。

③事業所における介護労働実態調査及び④介護労働者の就業実態と就業意識調査は市独自の項目による調査となっています。

⑤在宅生活改善調査及び⑥居所変更実態調査は、国指定項目による任意調査となっています。

なお、第九期計画時に実施していました市独自の調査種別「介護保険サービス利用状況実態調査」については、調査種別間における調査項目の重複解消を図るため、国指定の調査種別「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」及び「在宅介護実態調査」と統合することといたしました。

各調査種別におけるアンケート調査項目については、2ページから6ページに一覧表を記載しております。第九期計画で実施しました調査項目を基本としながら、新規項目の追加や加除修正等の見直しを行ったところです。

続きまして、第九期計画の調査項目との主な変更点につきましては、国指定項目では、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、高齢期における就労と要介護状態との関連性を分析する観点から、就労状況に関する項目が追加されています。

独自項目については、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、単身高齢世帯の現状を把握し、必要な支援のあり方を検討するため、また、認知症に関する意識を把握し、周知のあり方を検討するため、新たな項目を追加したところです。新規項目(案)につきましては、7ページをご覧ください。

そのほか、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査について、調査種別の統合等に伴い、調査項目について見直しを行いました。

なお、ただいま説明しましたアンケート調査につきましては、現時点での検討案となっております。今後、委員の皆様のご意見や、プロポーザルで決定したアンケート調査の委託事業者のアドバイス等を受けまして、最終決定するものとなります。

委員の皆様からのアンケート調査へのご質問・ご意見に関しましては、別紙の意見書にて受付いたし

ますので、11月4日(火)までに介護高齢福祉課へご提出いただきますようお願い申し上げます。いただいたご意見等につきましては、今後の調査項目の最終決定に向け、参考とさせていただきたいと考えております。

最後になりますが、今後のスケジュールにつきましては、令和8年1月にアンケート調査を実施しまして、3月に結果集計及び分析を行う予定です。

なお、令和8年2月の高齢者支援部会及び健康づくり支援部会において、次年度の計画策定に関するスケジュールについて説明を行う予定となっております。

説明は以上です。

○ 部会長

ただいまの説明について、ご意見やご質問はございますか。

○ 委員

送り先については帯広市内のほぼ全ての介護事業所が対象で、各事業所へは事業所用とそこで働く方用の複数の調査書が届くということでしょうか。

● 事務局

そのとおりです。

○ 委員

一般高齢者の方へはランダムに選んで送るということでしょうか。

● 事務局

そのとおりです。

○ 委員

高齢者ご本人が困っていても、その身内の方にとっては普段から見ている状況なので、困っていることに気付いていないことがあると思います。この 3,000 人へのアンケートが、気付きのきっかけになれば良いなと思いました。

● 事務局

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は 3,000 人に送ります。介護を受けていない元気な高齢者の方も含めて対象者を抽出しますので、もしかしたらそういう方に送ることもあるかと思えます。

○ 部会長

そのほか、ご意見やご質問はございますか。

○ 委員

一般高齢者とは何歳からでしょうか。

● 事務局

65歳からです。

○ 部会長

資料にある意見書については 11 月4日が締め切りとなっていますので、ご質問・ご意見あれば提出いただければと思います。

○ 委員

一般の方の選定方法について、先ほどお話した内容と同じですが、気付きに繋がれば良いなどということ意見を記入し提出しても良いのでしょうか。

● 事務局

はい。記入いただいてもかまいません。

○ 部会長

そのほか、ご意見やご質問はございますか。

(各委員及び専門委員 質問・意見なし)

○ 部会長

最後に、会議次第の(4)「その他」について、配付しております資料5「令和7年度保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金について」、事務局より説明願います。

● 事務局

令和7年度保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金についてご説明させていただきます。資料5をご覧ください。まず、1の交付金の概要ですが、自治体が行う自立支援・重度化防止、介護予防などの取組について、国が示す各評価指標の達成状況に応じて、財政的なインセンティブとして保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金が交付されております。

評価指標の内容について、2 帯広市の評価得点の表をご覧ください。

まず保険者機能強化推進交付金についてですが、目標1では主に、地域の介護保険事業の特徴、介護保険事業計画の進捗状況などが分析できているかなどについて 19 項目、目標2では、介護給付費の適正化に向けた取組が効果的にできているかについて 11 項目、目標3では、介護人材の確保・定着のため、北海道などと連携し必要な取組を実施しているかなどについて 13 項目を評価しています。

目標4では、平均要介護度1、2の方、平均要介護度3～5の方々のそれぞれ、短期的・長期的な介護度の変化状況について、各自治体が報告している統計に基づき国が評価したものになります。

また、右の介護保険保険者努力支援交付金については、目標1では主に、介護予防・生活支援サービス、通いの場などの、取組状況や課題の把握状況などについて41項目、目標2では認知症支援体制や取組状況について 16 項目、目標3では在宅・医療の連携の強化・推進に向けた取組状況などについて 17 項目を評価しています。

目標4については、先の保険者機能強化推進交付金の目標4と同様の評価です。

帯広市の得点や全国・北海道の平均等については、2の表のとおりとなっています。

3の表の交付額実績のとおり、評価得点や被保険者数の規模別に配分され交付金額が決定されます。

各評価指標や得点状況については、既に厚生労働省のホームページで公表されておりますが、帯広市のホームページにおいても今後、公表を予定しております。

説明は以上です。

○ 部会長

だいたい今の説明について、ご意見やご質問はございますか。

○ 委員

この評価得点に応じて交付金を受けられるということでしょうか。

● 事務局

そのとおりです。

○ 委員

資料にある、全国で 125 位、126 位というのは、全国のなかで上・中・下どのくらいでしょうか。

● 事務局

上位ではあるというところです。

○ 委員

2の表の中の介護保険の努力支援交付金について、目標1以外のスコアは全て全国・北海道平均より高いですが、目標1のみ全国・北海道平均より低くなっているのは何か原因があるのでしょうか。

● 事務局

目標1は、高齢者における介護予防のニーズを反映させるための取り組みを評価するものです。取り組みへの参加者等の把握はできているものの、効果検証まではできていないことが得点に結びつかない要因となっています。

○ 委員

その点は今後変えていくのでしょうか。

● 事務局

北海道平均より低いということは帯広市としても認識しているところなので、どういった手法が適切なのか、検討を進めて参ります。

○ 部会長

そのほか、ご意見やご質問はございますか。

(各委員及び専門委員 質問・意見なし)

○ 部会長

本日の議事は以上になりますが、その他、事務局から何かございますか。

● 事務局

次回の高齢者支援部会につきましては、来年2月を予定しており、令和8年度予算が主な議題になります。

日程につきましては、部会長と相談いたしまして、別途ご案内したいと思います。以上です。

○ 部会長

何かご意見やご質問はございますか。

(各委員及び専門委員 質問・意見なし)

○ 部会長

それでは、以上で予定されていた議事はすべて終了いたしました。

本日の高齢者支援部会はこれにて閉会といたします。皆様、大変お疲れ様でした。